

【心理士の研修内容】

がん領域で臨床業務を行う心理士は以下の7つのコアスキルの獲得が必須と考えます。がん患者の場合、主訴である症状や問題が精神的・心理的要因だけではなく、痛みや嘔気・嘔吐、治療に使われている薬剤の影響など身体的要因、あるいは経済・就労状況、家族環境などの社会的要因と関連している場合がしばしばあります。精神的・心理的要因に加え、身体的要因、社会的要因の評価を含めた包括的アセスメントを行い、介入プランを立て、心理士ができる介入を判断し活動していくことが求められます。特に3か月の初期研修では、コンサルテーションの入り口である予診が取れることを目標に、研修をすすめます。

表1. コンサルテーションに必要な7つのコアスキル
(日本サイコオンコロジー学会 <https://jpos-society.org/seminar/psychology/>より転記)

第1階層	第2階層	第3階層・小項目
準備ができる		基本的な医学・医療に関する知識
情報収集ができる	カルテから情報収集できる 他の医療者からの事前情報収集できる 事前情報に漏れがないかチェックできる	がんの医学的知識 医学的用語 医学的用語 多職種役割
アセスメントができる	がん治療・症状 身体症状 認知機能 気分障害・不安障害 発達・知能 パーソナリティ 不眠 社会的問題・資源 がん患者の心理（認知・対処・反応） 実存的問題・スピリチュアルペイン	がん治療・疾患に伴う症状 疼痛・倦怠感など 認知症・せん妄・認知機能テスト 抑うつ・不安障害・精神科診断・自殺・希死念慮 発達障害 発達・知能検査 人格障害 アセスメント法 治療法 保険制度 在宅医療 介護保険 就労 MSWの動き 高額医療制度 がんの病状理解・治療経過・疾患の状態 価値観 Good deathなど
情報共有ができる	問題の整理ができる アセスメント・情報の整理・検証ができる 記録ができる 情報提供・伝達ができる 他職種へ紹介する 患者・家族の倫理的問題に配慮する	患者・依頼者のニーズ・問題の理解と整理 医療スタッフに自らのアセスメントの結果を報告・相談し、その妥当性を検証する アセスメントの結果やがん心理介入方針をカルテに記載できる 患者・家族・病棟スタッフ・カンファレンス・地域連携・相談支援 精神科医・他の適切な医療スタッフへ紹介できる 守秘義務を守る・倫理原則に従った行動
がん心理介入ができる	「がん心理カウンセリング」ができる 専門的心理療法ができる 心理コーディネーションができる 心理教育ができる スタッフへの支援ができる	支持的精神療法等 患者・家族・遺族 グループ療法・認知行動療法・力動的療法 人間関係調整・環境調整（認知機能支援）等 患者・家族・医療スタッフ（CST）等 ストレスマネジメント・自身のメンタルヘルス
広報活動ができる	心理士の役割・活動実績を証明できる	患者・家族・医療スタッフ・管理者・地域など
がん心理活動の計画を立てられる	病院の実態を把握し、自らの活動を設計できる	行動目標の策定ができる

【自己評価】

3ヶ月の初期研修を終えて、各項目がどれだけ達成できたか、振り返りをして自己評価してください。今後の研修にいかしてください。

A：十分に達成できた B：概ね達成できた C：不十分

◎習得することが必修と考えられる項目

○今後習得することが望ましい項目

段階	学習目標	達成度
① 準備ができる	◎基本的な医学用語、知識について調べた	
② 情報収集ができる	◎カルテから必要な情報について情報収集できる	
	○ほかの医療者に情報収集できる	
	○事前情報に漏れがないがチェックし、足りない情報についてさらに情報収集ができる	
③ アセスメントができる	◎がん治療、疾患に伴う症状について理解できる	
	◎身体症状のアセスメントができる	
	◎せん妄についてアセスメントができる	
	◎認知機能評価、認知症についてアセスメントができる	
	○抑うつ、不安の評価ができる	
	○発達、知能検査ができる	
	○自分自身でテストバッテリーを組む	
	○社会的問題、資源について理解できる	
④ 情報共有できる	◎がん患者の心理状態（認知、対処、反応）を理解できる	
	○実存的苦痛、悲嘆について理解できる	
	◎問題の整理ができる（ニーズの把握）	
	○医療スタッフに自身のアセスメントを共有できる	
	◎アセスメントの結果や方針をカルテに記載する	
⑤ がん心理介入ができる	○カンファレンスで情報共有できる	
	○自身の介入患者をカンファレンスで議論できる	
	◎支持的介入ができるようになる	
	○リラクセーションができるようになる	
	○行動変容を目的とした禁煙外来でのカウンセリングの実施ができる	
	○医療者間のコミュニケーション、関係性について支援できる	
	○外来での継続カウンセリングができるようになる	
○病棟での継続カウンセリングができるようになる		
	○心理教育(スタッフ、患者、家族への実施)	

【参考文献およびWeb情報の紹介】

領域	タイトル (出版社/URL)
① 基礎医学	◎カルテを読むための医学用語・略語・ミニ辞典 (医学書院) ・あたらしい人体解剖学アトラス (メディカル・サイエンス・インターナショナル) ・救命救急士標準テキスト上・下 (へるす出版)
② がん (その他疾患を含む)	<疾患および身体症状> ◎がん情報サイト (http://cancerinfo.tri-kobe.org/index.html) ◎国立がん研究センターがん情報サービス (https://ganjoho.jp/public/index.html) ◎がん診療レジデントマニュアル第8版 (医学書院) ・ナースのためのオンコロジー--これだけは知っておきたい がんの知識 (医学書院) ・今日の治療指針 (医学書院) <薬剤> ・今日の治療薬 (医学書院)
③ サイコオン コロジー	◎精神腫瘍学クイックリファレンス (創造出版) ◎精神腫瘍学ポケットガイド これだけは知っておきたい医療における心のケア (創造出版)
④ 精神医学	<精神疾患> ◎DSM-5 (医学書院) ◎せん妄診療はじめの第一歩 (羊土社) ◎あなたの患者さん, 認知症かもしれません (医学書院) ・精神科診断面接マニュアル第3版 (メディカル・サイエンス・インターナショナル) ・精神科身体合併症マニュアル (医学書院) ・カプラン臨床精神医学テキスト DSM-IV-TR 診断基準の臨床への展開 (メディカル・サイエンス・インターナショナル) ・精神科診察診断学エビデンスからナラティブへ (医学書院) ・精神科診断面接マニュアル SCID (日本評論社) ・精神・心理症状学ハンドブック (日本評論社) ・内科医のための不眠診療はじめの一歩 (羊土社) ・精神科面接マニュアル第3版 (メディカル・サイエンス・インターナショナル) <向精神薬> ・現場で役立つ精神科薬物療法入門 (金剛出版) ・こころの治療ハンドブック (星和書店)
⑤ 緩和ケア	◎ステップ緩和ケア (緩和ケア普及のための地域プロジェクト OPTIM)
⑥ チーム医療	・接遇の基本第2版 (国立がんセンター東病院)
⑦ 心理業務	◎リラクゼーション法の理論と実践-ヘルスケア・ワーカーのための行動療法入門 (医歯薬出版) ・エビデンスベースド心理治療マニュアル (日本評論社) ・ケアする人も楽になる認知行動療法入門 上・下 (医学書院)
その他	◎当部が用意したスライド集 ・当部スタッフの原稿 ・JPOS 研修冊子 ・日経メディカルオンライン (http://medical.nikkeibp.co.jp/)